

Always On Your Side



株主の皆さまの声をお聞かせください

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、下記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 3770

いいかぶ 検索

Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、「いいかぶ」と4文字入れて検索してください。

空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本株主通信がお手元に到着してから約2ヶ月間(2007年9月30日まで)です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます

※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細<http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」
TEL: 03-5777-3900 MAIL: info@e-kabunushi.com

株主メモ

事業年度	5月1日から翌年4月30日まで
株主確定基準日 <small>(定時株主総会・期末配当金)</small>	4月30日
中間配当基準日	10月31日
定時株主総会	7月中
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
お問い合わせ先 郵便物送付先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-7111 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
公 告 の 方 法	電子公告により行う。(ただし電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。)(http://www.zappallas.com/ir/O4.html)

ZAPPALLAS www.zappallas.com

Interview with the President

社長インタビュー



ごあいさつ

ザッパラスは、2007年4月期も前期に引き続き大幅な増収増益を達成いたしました。しかし、この好業績に安住することなく、これからも利益体質の一層の強化を図り、さらなる成長に向けた基盤構築に全力で取り組んでまいります。株主の皆さまには、今後とも変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます。

スギヤマ マサノリ
代表取締役社長 杉山 全功

Profile: 1965年東京都生まれ。1988年関西大学法学部卒業後、ダイヤル・キュー・ネットワーク取締役に就任し、音声を活用したコンテンツビジネス事業の立ち上げに参画する。シンフォレストで専務取締役、インデックスで経営企画室長など、他メディアでのコンテンツ業界を経て、2004年(株)ザッパラス代表取締役社長に就任し、現在に至る。

Q 2007年4月期の業績についてご説明ください。

A 当期の連結業績は売上高6,939百万円(前期比30.5%増)、営業利益1,251百万円(前期比63.3%増)、経常利益1,252百万円(前期比66.5%増)、当期純利益664百万円(前期比49.7%増)と、大幅な増収増益を達成することができました。数年来取り組んできた高収益構造の確立や適正な事業ポートフォリオの構築に向けた経営施策が実を結んできたと感じています。主力であるデジタルコンテンツ事業は、収益性を高めながら安定的な成長を実現することを基本方針として、内制化の推進、ノウハウの高度化、事業運営の効率化を進めました。その結果、売上高は5,142

百万円(前期比28.0%増)、営業利益は1,862百万円(前期比57.2%増)となり、大幅な増収増益を達成することができました。コマース関連事業では収益の改善を図り、営業損失が圧縮されました。特にモバイルコマースの分野では第4四半期で黒字化を達成しており、利益創出の段階に入ったと考えています。その他の事業では、連結子会社のアレス・アンド・マーキュリーが手掛けている広告配信事業、JR東日本企画との提携でモバイルSuicaポータルサイトの運営を行っているソリューションビジネスが、いずれも順調に推移しました。

「個」を育み、新たなマーケットを創る。

私たちザッパラスは2000年の創立時より、お客さま一人ひとりの満足を追求し、お客さまやクライアントとの緊密な関係を維持し、それによって新たな流通ネットワークの確立をめざすことを企業理念として掲げてきました。21世紀のモバイルビジネスは、顔の見えない顧客集団を対象としては成立しません。それぞれ異なる個性と嗜好を持ったお客さまの「個」に訴えかける商品やコンテンツの創造と、お客さまの生涯価値の向上に資するEコマースコミュニケーションの構築が求められています。ザッパラスは、430万人を超える会員へのサービス提供によって蓄積された膨大なデータベースを基盤として付加価値の高いソリューションサービスを創出し、すべてのステークホルダーにとって価値ある企業であり続けます。

■ 顧客から個客へ。「個」を尊重することを大切に。

私たちザッパラスは、顧客をひとくりにするのではなく、ひとつひとつの個性を尊重しながら、ひとりの人として対等に向き合っていきたい。

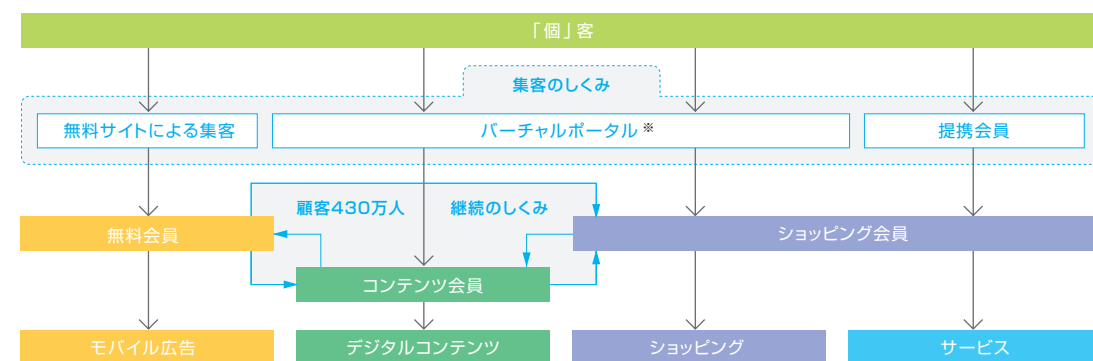
■ 「縁」を育む関係づくり。人生に寄り添う生活デバイスに。

安易なディスカウントやその場限りのインセンティブ、過剰なプロモーションなどによって一度限りのユーザーを増やすのではなく、価値ある商品やコンテンツを提供し続けながら「縁」を育てていくこと。

■ 笑顔で満たされる、付加価値の高い流通環境を。

単に安いというだけの商品ではなく、確かな価値のある商品を扱うこと。それは、新たな商品流通ネットワークを創造するカギのひとつであると言えるでしょう。お客さまに対して商品が持つ背景(ストーリー)をきちんと伝え、その価値に見合った価格で提供することにより、お客さまやクライアント、さらには作り手の満足を高め、次の商品流通につながります。

ビジネスモデル



*サイト間で相互リンクすることによって、露出度を高め、利用者の流入を増やすポータルサイトと同様の効果が得られることを指します。

Interview with the President

社長インタビュー

Q 大幅な増収増益を達成できた要因は何でしょうか。

A デジタルコンテンツ事業では、低コストで大量の新規サイトを投入できたことが大きな要因だったと考えています。当社は企画制作から運営に至るまでの一貫体制を完備しているため、マーケットの変化に迅速かつ低コストで対応できます。当期もこの強みを活かし、占いやデコメ(デコレーションメール)などのカテゴリに積極的に新規サイトをリリースしました。コマース関連事業に関しては、商品構成の見直しなどによる収益構造の変革を推進しました。売り手の都合ではなく、お客さまの視点に立ってマーチャンドライジングを再検討するとともに、利益重視の徹底化を図ったことが第4クォーターでの黒字化に寄与したものと考えています。

NTTドコモ メニューリスト 占いカテゴリのランキング



Q ザッパラスを取り巻く市場環境の変化についてお聞かせください。

A 当社グループの主力事業であるデジタルコンテンツ分野では、企業間もしくはサービス間の競争が従来にも増して激



なくなってきました。ゲーム、着メロ、占いなど、さまざまなジャンルで、上位の会社がさらにシェアを伸ばし、下位の企業が低迷するという二極化の傾向が顕在化しています。市場全体も、以前のような2桁成長から1桁成長へと伸びが鈍化しており、各社のシェア争奪戦がますます激化することは確実です。

業界の再編も必至の情勢です。携帯電話はいま、おサイフケータイ®やモバイルSuicaのように決済機能を持ったサービスツールに変化しています。またワンセグも来年以降、独自の番組配信が可能になるのはほぼ確実です。ただコンテンツを制作していればよかった時代は終わり、他業界との連携が求められるようになってきました。今後、M&Aなどによる業界の再編が加速することは間違いありません。

Q 市場環境の変化はザッパラスにどのような影響を与えとお考えですか。

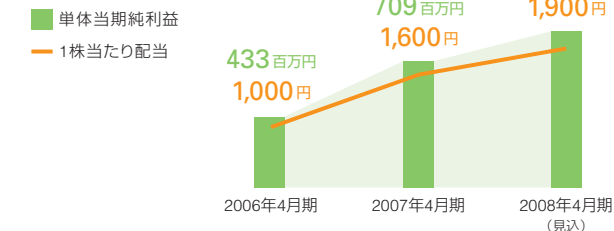
A 競争の激化や業界の再編は、当社にとってはむしろ追い風だと考えています。理由のひとつは効率的なオペレーションを実現する体制があることです。当社はこれまでカテゴリキラーである占いの分野で業界最多の142サイト(2007年4月30日現在)を提供してきましたが、その歴史の中で、企画制作の優れたノウハウを蓄積し、サイトの開発から運営に至る全行程を効率的にオペレーションする一貫体制を整備してきました。商品・サービスの質の面でもコスト競争力の面でも同業他社を凌駕しており、競争激化によって当社の優位性がより鮮明になると考えています。もうひとつの理由は安定した顧客基盤です。当社は会員定着率の高い占いカテゴリへの投入をより強化したことにより、一般的に可

処分所得が高いと言われるF1層(25歳~34歳の女性層)に確固とした顧客基盤を形成することができました。この会員430万人のデータベースを分析することによって、顧客ニーズに合致したサービスや商品の開発を行うことが可能となっています。また、安定した既存会員層に、新規コンテンツ投入によって新たな顧客が上積みされるという継続型のビジネスモデルが完成しているため、事業の持続的拡大が他社に比べ容易になっています。

Q 2008年4月期の主要施策と業績見通しについてお聞かせください。

A 2008年4月期は、ザッパラスグループが中長期的に成長していくための初年度と位置づけています。利益体質の一層の強化を図り、さらなる発展への基盤を築く年度です。その実現に向けて、事業面では、収益性の高い占いカテゴリに新規サイトを集中投入する一方、当社顧客層にマッチする「健康/ヘルスケア」など新規カテゴリの開拓に努めていきます。コマース関連事業では、引き続き収益の安定化に注力するとともに、新規顧客の開拓や他社との事業提携により新たな商材・販路の開拓に取り組んでいきます。管理面では、社内体制の強化に着手します。本年5月1日に組織変更を行い、事業部間のシナジーを高めるために、当社の会員を一元管理する「マーケティング事業部」を新設しました。また管理本部の中に経営企画部を発足させてマネジメント力の向上を図ってまいります。J-SOX法に備えた内部統制徹底化の取り組みも進めています。こうした施策によって、2008年4月期は売上高、利益ともに2桁の成長を達成したいと考えています。

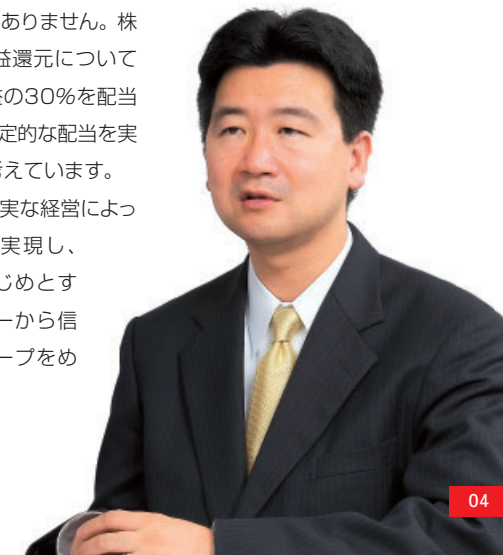
株主還元



※2006年11月に1株につき2株の割合の株式分割を実施しております。2006年4月期の1株当たり配当は、当該分割が前期首に行われたと仮定して算出してあります。

Q 最後に株主の皆さまにメッセージをお願いします。

A 当社は株主への利益還元を重要な課題と認識しております。現在、東証マザーズなどの新興市場では企業業績への懸念が払拭されていませんが、当社は上場後2年間、提示したコミット数字を確実に達成してきました。また決算情報の早期開示などIRの強化に努めてきました。この基本姿勢は今後も変わることはありません。株主の皆さまへの利益還元については、単体当期純利益の30%を配当性向の目処とし、安定的な配当を実行していきたいと考えています。当社はこれからも堅実な経営によって持続的な成長を実現し、株主の皆さまをはじめとするステークホルダーから信頼される企業グループをめざしていきます。



Key Indicators

重要な経営指標

Topic 1

有料会員数

ザッパラスグループの公式コンテンツ会員数は約430万人。このうち150.6万人（2007年4月30日現在）が有料会員となっており、前期比で15.9万人増加しました。有料会員の多くは市場牽引力が強いと言われるF1層（25歳～34歳の女性層）であり、顧客ニーズに合わせて「占い」を中心とした295サイトを提供しています。

ザッパラスグループの有料会員数は、過去2年間、四半期ごとの推移を見ても一貫して増加基調を辿っています。これは退会するお客さまが少ないため、新たに投入したコンテンツによるユーザーが、そのまま有料会員数の上積み分となっているからです。

今後は、F1層を中心とした継続型ビジネスモデルを維持しながらも、F2層（35歳～49歳の女性層）やシニア層、男性ビジネスマンなどの顧客層の取り込みも図っていきたくと考えています。

Topic 2

コマース関連事業売上高

ザッパラスグループのコマース関連事業は、モバイルコマース事業と携帯電話販売事業に大別されます。2007年4月期、モバイルコマース事業では収益力の向上をめざして商品構成の見直しを行い、商材の「選択と集中」を図りました。『キレイ革命』『ブランドアウトレット』『スイーツの王様』という3つのショッピングサイトを中心に、コスメ、ブランド小物、スイーツ等を効率的に販売しております。携帯電話販売事業では、ソフトバンクショップ2店舗、auショップ1店舗を新たにオープンし、合計5店舗となりました。

この結果、当期のコマース関連事業の売上高は前期比34.2%増の1,570百万円となりました。連結売上高に占める割合は前期より0.6ポイント上昇し、22.6%となっています。また売上総利益率も前期の27.0%から当期は29.1%と上昇し、収益構造の改善がみられました。

Topic 3

売上高経常利益率

ザッパラスグループは企業の収益力を最も的確に示す経営指標として売上高経常利益率を重視し、常に10%以上を確保できる体制の構築をめざしています。2007年4月期の売上高経常利益率は18.0%を達成し、前期より3.9ポイント向上しました。これは、デジタルコンテンツ事業において収益性の高い占いカテゴリーに集中的にサイトを投入するとともに、制作・開発コストの圧縮を図ったこと、並びにコマース関連事業で収益の改善によって売上総利益率が向上したことによるものです。

ザッパラスグループではコマース関連事業を展開しておりますが、それらの事業はいわゆる「小売り」の立場にあります。そのため、事業ポートフォリオの変化によってこれらの事業比率が上昇した場合、売上高経常利益率が低下する可能性があります。デジタルコンテンツ事業の安定的な成長によって低下分をカバーし、グループ全体の高収益構造を維持していきたいと考えています。

Topic 4

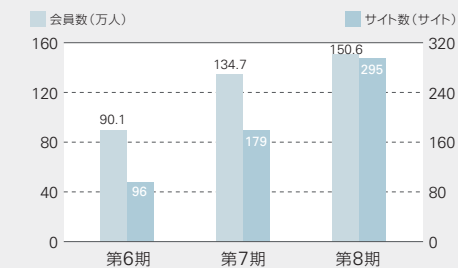
新規投入サイト数

2007年4月期は、モバイルで94サイト、PCで36サイト、合計で130サイトを新規投入しました。その結果、期末サイト数は、モバイル205サイト、PC90サイトの合計295サイトとなっています。提供サイト数は前期比で116サイト増加しており、新規会員獲得の原動力となりました。

ザッパラスグループがトップシェアを有している「占い」については、当期106サイトを新規投入しました。なかでもNTTドコモが展開する「iモード®」向けに配信を開始した『銭天牛の予言』や『大人の関係』が好評を博しています。また、2007年2月に『大人のカラダ』の提供を開始し、「健康/ヘルスケア」への進出を果たしました。

なお、2008年4月期は通期で71サイトの新規投入を計画しています。

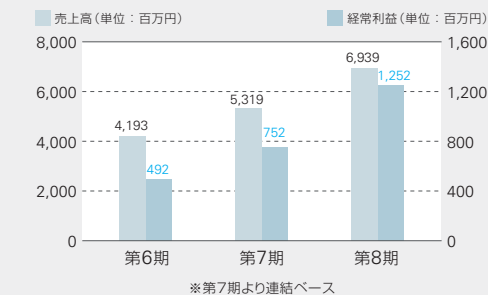
■ 会員数及びサイト数



■ 主要ショッピングサイト

<p>キレイ革命</p> <p>ペルルシャンパーニュ スブラッシュホ リック (化粧水)</p> <p>パーフェクトラブ 女性用 (香水)</p>	<p>ブランドアウトレット</p> <p>【ブルガリ】 BVLGARI 長財布 /20401BK</p> <p>【セリーヌ】 CELINE プギーバッグ /13402 ネイビー</p>	<p>スイーツの王様</p> <p>【花月堂】 桜満開!!モンブランロール</p> <p>【フランツ】 半熟キャラメルチーズケーキ</p>
--	---	--

■ 売上高及び経常利益



■ 提供サイト

銭天牛の予言



大人の関係



大人のカラダ



Consolidated Financial Statements

連結財務諸表

■ 貸借対照表(要旨)

科目	当期		前期	
	2007年4月30日現在	2006年4月30日現在	2007年4月30日現在	2006年4月30日現在
資産の部				
流動資産	4,098,072	3,426,917		
固定資産	1,410,838	1,270,190		
有形固定資産	150,052	83,253		
無形固定資産	982,674	919,210		
投資その他の資産	278,110	267,727		
資産合計	5,508,910	4,697,108		
負債の部				
流動負債	1,388,915	1,192,135		
固定負債	—	212		
負債合計	1,388,915	1,192,347		
少数株主持分				
少数株主持分	—	12,476		
資本の部				
資本金	—	1,366,843		
資本剰余金	—	1,292,218		
利益剰余金	—	833,222		
資本合計	—	3,492,284		
負債、少数株主持分及び資本合計	—	4,697,108		
純資産の部				
株主資本	4,077,278	—		
資本金	1,396,243	—		
資本剰余金	1,321,618	—		
利益剰余金	1,359,416	—		
少数株主持分	42,716	—		
純資産合計	4,119,995	—		
負債純資産合計	5,508,910	—		

(単位：千円)

連結貸借対照表・純資産の部について

2006年5月1日施行の会社法により、「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が新設されました。これは、貸借対照表上、資産性を持つものを「資産の部」、負債性を持つものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを資産と負債との差額として「純資産の部」に記載するものです。これにより、会社の支払い能力などの財政状態を、より適切に表示することが可能となります。

■ 損益計算書(要旨)

科目	当期		前期	
	自2006年5月1日至2007年4月30日	自2005年5月1日至2006年4月30日	自2006年5月1日至2007年4月30日	自2005年5月1日至2006年4月30日
売上高	6,939,474	5,319,114		
売上原価	3,155,176	2,761,515		
売上総利益	3,784,297	2,557,599		
販売費及び一般管理費	2,533,073	1,791,355		
営業利益	1,251,224	766,244		
営業外収益	16,393	1,671		
営業外費用	14,855	15,541		
経常利益	1,252,762	752,374		
特別利益	208	524		
特別損失	42,154	10,122		
税金等調整前当期純利益	1,210,816	742,776		
法人税、住民税及び事業税	602,017	314,947		
法人税等調整額	△41,747	△16,444		
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△14,206	236		
当期純利益	664,753	444,037		

(単位：千円)

■ キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科目	当期		前期	
	自2006年5月1日至2007年4月30日	自2005年5月1日至2006年4月30日	自2006年5月1日至2007年4月30日	自2005年5月1日至2006年4月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	859,343	473,765		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△318,018	△1,125,182		
財務活動によるキャッシュ・フロー	△69,429	1,533,958		
現金及び現金同等物の増減額	471,895	882,541		
現金及び現金同等物の期首残高	1,970,070	1,087,529		
現金及び現金同等物の期末残高	2,441,966	1,970,070		

(単位：千円)

株主資本等変動計算書(要旨)について

2006年5月1日施行の会社法により、「連結剰余金計算書」が廃止され、「連結株主資本等変動計算書」が新設されました。これは、貸借対照表の純資産の部の中で、主として株主の皆さまに帰属する株主資本について、その1会計期間における変動事由と変動額を、連結ベースでご報告するために作成する計算書類です。

■ 株主資本等変動計算書(要旨) 当期(自2006年5月1日至2007年4月30日)

(単位：千円)

	株主資本				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計		
2006年4月30日 残高	1,366,843	1,292,218	833,222	3,492,284	12,476	3,504,760
連結会計年度中の変動額						
新株の発行	29,400	29,400		58,800		58,800
剰余金の配当(注)			△125,560	△125,560		△125,560
利益処分による役員賞与(注)			△13,000	△13,000		△13,000
当期純利益			664,753	664,753		664,753
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					30,240	30,240
連結会計年度中の変動額合計	29,400	29,400	526,193	584,993	30,240	615,234
2007年4月30日 残高	1,396,243	1,321,618	1,359,416	4,077,278	42,716	4,119,995

(注) 2006年7月の定時株主総会における利益処分項目であります。

Non-Consolidated Financial Statements

単体財務諸表

貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科目	当期	前期
	2007年4月30日現在	2006年4月30日現在
資産の部		
流動資産	3,729,126	3,268,039
固定資産	1,609,246	1,299,350
有形固定資産	94,685	55,495
無形固定資産	182,190	98,207
投資その他の資産	1,332,370	1,145,648
資産合計	5,338,373	4,567,390
負債の部		
流動負債	1,226,927	1,085,284
負債合計	1,226,927	1,085,284
資本の部		
資本金	—	1,366,843
資本剰余金	—	1,292,218
利益剰余金	—	823,043
資本合計	—	3,482,106
負債及び資本合計	—	4,567,390
純資産の部		
株主資本	4,111,445	—
資本金	1,396,243	—
資本剰余金	1,321,618	—
利益剰余金	1,393,583	—
純資産合計	4,111,445	—
負債純資産合計	5,338,373	—

株主資本等変動計算書(要旨) 当期(自2006年5月1日至2007年4月30日)

(単位:千円)

	株主資本					純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計		
		資本準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金			
2006年4月30日 残高	1,366,843	1,292,218	823,043	3,482,106	3,482,106	
事業年度中の変動額						
新株の発行	29,400	29,400		58,800	58,800	
剰余金の配当(注)			△125,560	△125,560	△125,560	
利益処分による役員賞与(注)			△13,000	△13,000	△13,000	
当期純利益			709,099	709,099	709,099	
事業年度中の変動額合計	29,400	29,400	570,539	629,339	629,339	
2007年4月30日 残高	1,396,243	1,321,618	1,393,583	4,111,445	4,111,445	

(注) 2006年7月の定時株主総会における利益処分項目であります。

損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当期	前期
	自2006年5月1日 至2007年4月30日	自2005年5月1日 至2006年4月30日
売上高	5,691,891	4,896,855
売上原価	2,373,261	2,530,065
売上総利益	3,318,629	2,366,790
販売費及び一般管理費	2,045,287	1,634,318
営業利益	1,273,342	732,472
営業外収益	3,644	1,947
営業外費用	12,660	15,531
経常利益	1,264,326	718,888
特別利益	1,905	—
特別損失	40,154	9,320
税引前当期純利益	1,226,077	709,568
法人税、住民税及び事業税	560,534	291,270
法人税等調整額	△43,557	△15,560
当期純利益	709,099	433,858
前期繰越利益	—	389,185
当期末処分利益	—	823,043

Corporate Data

会社案内 (2007年4月30日現在)

会社の概況

会社名	株式会社ザッパラス
住所	東京都渋谷区恵比寿一丁目19番19号
資本金	13億9,624万3,600円
設立	2000年3月
事業年度	5月1日から翌年4月30日まで
従業員	連結126名 (2007年4月30日現在)
子会社	株式会社ジープラス 株式会社アレス・アンド・マーキュリー

役員

代表取締役会長	玉置 真理
代表取締役社長	杉山 全功
取締役	森 春之
取締役	松本 浩介
取締役	山崎 浩史
社外取締役	田中 奉文
常勤監査役	伊藤 勇
監査役	井上 昌治 (弁護士)
監査役	濱村 則久 (公認会計士)

株式の状況

発行可能株式総数	190,000株
発行済株式の総数	128,500株
株主数	3,116名

大株主の状況

順位	株主名	持株数(株)	持株比率(%)
1	玉置 真理	27,620	21.49
2	三木谷 浩史	14,930	11.62
3	日本マスタートラスト信託銀行株式会社	12,253	9.54
4	ネットキャピタルパートナーズリミテッド	12,050	9.38
5	佐藤 和利	6,540	5.09
6	杉山 全功	4,060	3.16
7	兼松コミュニケーションズ株式会社	2,000	1.56
8	日本証券金融株式会社	1,956	1.52
9	明治安田生命保険相互会社	1,920	1.49
10	日本トラスティサービス信託銀行株式会社	1,868	1.45

株式の分布状況

